

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：32696

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520253

研究課題名(和文)日本人から見た上海表象－1920～1945年

研究課題名(英文)Japanese Representations of Shanghai(1920-1945)

研究代表者

渋谷 香織 (SHIBUYA, KAORI)

駒沢女子大学・人文学部・教授

研究者番号：10196446

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1920年から1945年までの上海表象を軸に、当時の日本人が体験した異文化表象と文学との関わりについて調査し、横光利一「上海」の典拠となる幾つかの資料を発掘、収集することが出来た。これらの研究を踏まえて、2012年9月にシンポジウム「戦間期東アジアの日本語文学1920～1945年」を開催し、当時の東アジアで日本人が体験した異文化表象と、それを描いた日本語文学について共同討議を行った。さらに2013年8月に、このシンポジウムの成果を論集としてまとめた『アジア遊学167 戦間期東アジアの日本語文学』を刊行した。

研究成果の概要(英文)：Thematically oriented around representations of Shanghai between 1920 and 1945, this study surveys the representations of alterity among Japanese during the interwar period and their literary expression, unearthing a collection of materials pertaining to Riichi Yokomitsu's novel "Shanghai". In light of these studies, the symposium "Japanophone Literature in East Asia between the Wars 1920-1945" was held in September 2012 as an opportunity for combined discussions concerning Japanese experiences of alterity in East Asia during the interwar period and their expression in Japanophone literature. Furthermore, the proceedings of this symposium were compiled and published in August 2013 as "Ajia Yugaku 167": "Senkanki Higashi Ajia no Nihongo bungaku" [The Peripatetic Education in Asia 167: Japanophone Literature in East Asia between the Wars].

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：上海 表象文化 日本人 東アジア 日本語文学 戦間期

1. 研究開始当初の背景

近年の日本近代文学研究では、記号論、都市論、社会学、文化研究等の成果を導入し、これまでと異なる様々な方向性を模索し始めている。その結果として、文学作品に描かれた様々な表象と、同時代の社会、文化、政治、経済との関係性が新たに見出されるようになった。

上海という「都市」表象の研究についても、前田愛『都市空間のなかの文学』(1982年、筑摩書房)以後かなり進んでおり、その中でも、和田博文らによる『言語都市・上海 1840 - 1945』(1999年、藤原書店)や、大橋毅彦らによる『上海 1944 - 1945 武田泰淳『上海の蜩』注釈』(2008年、双文社出版)は、上海という「都市」に関わる表象と言説の分析を行っており、示唆に富んでいる。だが、多国籍都市としての上海に関する「民族」「ジェンダー」「社会」などの表象とその同時代的な意味については、これから調査、解明されるべき多くのことが残されている。

そこで、本研究グループでは、1920年代から1940年代にかけての上海に関する表象文化に焦点を合わせ、出版や映画などのメディアを通して、そこに描かれた「民族」や「ジェンダー」などの表象についての総合的な検証を進めてきた。

2. 研究の目的

本研究は、1920年代から1940年代の日本人の見た上海を含む海外表象を当時の様々な分野の資料と表象との間に展開される関係性を明らかにしたうえで、横断的に分析・検証していくことを目的とする。

この時代の上海に関する表象文化研究は、出版や映画などのメディアを通して、そこに描かれた「民族」や「ジェンダー」などの表象を総合的に検証しなければならない。そのためには、上海の都市文化だけでなく上海を取り巻く当時のアジア・ヨーロッパ各国の政治、経済、文化その他の資料収集および検討

が必要である。当時の上海における日本をはじめとする各国の動向や国際情勢と、上海をはじめとする「外地」を描いた文学作品との関連性を検討していくことが、1920年代から1940年代にかけての上海表象を論じるにあたって重要になると考えている。

3. 研究の方法

本研究では、多くの日本人が上海を訪れていたり現実に暮らしたりしていた1920年代から1940年代にかけて発表された小説や映画資料をもとに、それらにおける上海表象が当時のどのような情報をもとに作られていたのか、その典拠を探ることで、日本人の見た上海表象の生成について考えていく。

具体的には、国際都市上海に関するイメージを日本人に植えつけることになった村松梢風『魔都』(1924年、小西書店)や『上海』(1927年 騒人会)、井東憲『上海夜話』(1929年、平凡社)等の作品や、横光利一『上海』(1928~1935年)等の作品の分析を行った。これらの作品に描かれた国際都市上海における社会、文化、政治、経済に関する様々な表象を抽出した上で、これらの日本人作家が上海に関する情報を得たと思われる、新聞、雑誌等のメディアの中から典拠となった資料と文学作品とを比較対照し検討した。また、これらの典拠をもとに生成された上海表象の分析を行った。

さらに、この研究を多角的なものにするために、映画メディアにおける表象の分析も行い、上海における表象文化の視覚的側面の検証と、文学作品と関わりについて考察した。これらを通して1920年代から1940年代までの上海における日本人の視点と、それらを相対化する「外地」の視点を比較対照することで、より立体的な表象文化研究を行った。

4. 研究成果

平成23年5月に研究分担者によるパネル発表「上海表象文化研究の試み―戦間期の上

海を中心に」(日本近代文学会春季大会)を行うとともに、10月には研究分担者が上海で開催されたシンポジウム「近代百年 日本文学における上海」に参加し、日中両国の上海研究について意見交換を行った。

平成24年9月8日、9日の両日、龍谷大学で開催したシンポジウム「戦間期東アジアの日本語文学 1920~1945年」では、国内のみならず、中国や台湾からも参加者を得、当時の日本語文学における中国(上海、長春、大連)、台湾、朝鮮(平城)、日本(東京)などの都市表象と人間・経済・国家について議論し、様々な角度からの考察と議論を行った。

内容は以下のとおりである。

講演「1932年の上海：戦争・メディア・文学
穆時英の『空閑少佐』をめぐる」(李征)
研究発表

「横光利一「上海」典拠と改稿をめぐる」
(渋谷香織)

「植民地をめぐる文学的表象の可能性 西川満・森三千代・小出正吾を中心に」(土屋忍)

「林芙美子の中国旅行 『戦線』への道程」
(羽矢みずき)

「二つの前衛芸術の併置と矛盾 雑誌『無軌列車』『新文芸』を通して」(劉妍)

「まなざしの地政学 満州写真作家協会と満州アヴァンガルド芸術クラブ」(小泉京美)

「佐藤春夫『南方紀行』と煙草商戦の「愛国」」
(河野龍也)

「種の理論あるいは力学的空間 田辺哲学から横光利一へ」(柳瀬善治)

【共同討議 戦間期東アジアにおける日本語文学 1920~1945年】

〔ディスカッサント〕大橋毅彦

〔基調報告〕

1「上海表象のリミット 前田河廣一郎と横光利一」(田口律男)

2「日本統治下上海のグレーゾーン 上海文

学研究会とその周辺」(木田隆文)

3「李箱の詩、李箱の日本語 メディアとしてのノミキ出しにされた日本語」(佐野正人)

4「満洲幻想の生成とその効用 「満洲浪漫」同人の文学表象を中心に」(劉建輝)

平成25年8月に研究代表者、研究分担者が編者となって、『アジア遊学』に「戦間期東アジアの日本語文学 1920~1945年」という特集を組み刊行した。これは前年度に行ったシンポジウムを発展させ、本研究の意義と重要性を多方面に向けて発信したものである。上海文化表象だけではなく、南方・台湾や北方の文化表象をもとに当時の日本語文学に言及する論文が集まったことにより、本研究はより横断的・重層的なものになった。

内容は以下のとおりである。

メディア表象 雑誌・出版・映画

「1932年の上海：戦争・メディア・文学」(李征)

「中国モダニズム文学と左翼文学の併置と矛盾について」(劉妍)

「占領期上海における『上海文学』と『雑誌』」
(呂慧君)

「張資平ともう一つの中国新文学」(城山拓也)

「村松梢風と騷人社 魔都と侠客」(中沢弥)

「雑誌『改造』と上海」(松村良)

上海文化表象 都市・空間

「上海「魔都」イメージの内実 村松梢風井東憲から横光利一へ」(石田仁志)

「上海表象のリミット 横光利一と前田河廣一郎」(田口律男)

「表象の危機から未来への開口部へ」(柳瀬善治)

「汪兆銘政権勢力下の日本語文学」(木田隆文)

「明朗上海に刺さった小さな棘」(大橋毅彦)

「森三千代の上海 描かれた装いの意味」

(宮内淳子)

南方・台湾文化表象 植民地・戦争

「佐藤春夫『南方紀行』の路地裏世界」(河野龍也)

「1920、30年代の佐藤春夫、佐藤惣之助、
釈迢空と『南島』」(浦田義和)

「書く兵隊・戦う兵隊 火野葦平と雑誌『兵隊』」(掛野剛史)

「植民地をめぐる文学的表象の可能性」(土屋忍)

「1935年の台湾と野上弥生子」(渡邊ルリ)

北方文化表象 満洲・北京・朝鮮

「まなざしの地政学」(小泉京美)

「満洲口マンの文学的生成」(劉建輝)

「境界線と越境 中園英助の習作群をめぐる」(戸塚麻子)

「李箱の詩、李箱の日本語」(佐野正人)

「戦間期における朝鮮と日本語文学」(南富鎮)

本研究において、横光利一『上海』の上海表象についての資料を渉猟するうちに、新たなプレテキストを発掘したことを付け加えておきたい。

上海日本商業会議所が編纂した『邦人紡績罷業事件と五州事件及各地の動揺 第一輯』(菊版、896ページ、奥付なし。表紙に大正十四年九月卅日とある。)650ページにある劉曾一氏談「中國公民より日本人諸君に與ふ」という文章がほぼ原文に近い形で横光利一『上海』の李英朴の手紙として使用されていることが明らかになったのである。このテキストと横光の『上海』と関係については、石田仁志、田口律男、「『上海』の典拠 『邦人紡績罷業事件と五州事件及各地の動揺 第一輯』」(横光利一研究、第8号、2010、14-29)で、すでに明らかにされているが、この部分に関する指摘はなかった。これは平成24年9月に龍谷大学で開催したシンポジウム「戦間期東アジアの日本語文学 1920～1945年」における研究発表渋谷香織「横光

利一『上海』典拠と改稿をめぐって」ならびに田口律男「上海表象のリミットー前田河廣一郎と横光利一」で発表されたうえで、田口律男「上海表象のリミットー前田河廣一郎と横光利一」(『アジア遊学』167、2013、91-101)で論じられている。

典拠との異同について精査していくうちに、横光の『上海』が、「事実」をありのままに再現したものではなく、独自の手法 細密化、コラージュ、圧縮・合成、構図化などによって、アクティブに再構成したものであることが明らかになってきた。

平成26年3月の研究成果報告会では、研究成果を検証したうえで改めて問題提起を行い、今後の研究の方向性について議論した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

(1)松村良、雑誌『改造』と上海、石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中澤弥・松村良編『アジア遊学 167 戦間期東アジアの日本語文学』、査読無、2013、67-76

(2)石田仁志、上海“魔都”イメージの内実—村松梢風・井東憲から横光利一へ、石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中澤弥・松村良編『アジア遊学 167 戦間期東アジアの日本語文学』、査読無、2013、77-90

(3)田口律男、「上海表象のリミットー—横光利一と前田河廣一郎」石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中澤弥・松村良編『アジア遊学 167 戦間期東アジアの日本語文学』、査読無、2013、91-101

(4)掛野剛史、書く兵士・戦う兵士 火野葦平と雑誌『兵隊』、石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中澤弥・松村良編『アジア遊学 167 戦間期東アジアの日本語文学』、査読無、2013、172-182

(5)中澤弥、村松梢風と騷人社 魔都と侠客、石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中澤弥・松村良編『アジア遊学 167 戦間期東アジアの日本語文学』、査読無、2013、57-66

(6)中澤弥、ダンスホールの資本戦、横光利一研究、査読有、11号、2013、19-30

(7)中澤弥、横光利一『上海』と映画表象、鈴木貞美・李征編『上海100年』勉誠出版、査読無、149-166

(8)石田仁志、横光利一「上海」のインターテクスチュアリティ—表象の論理—、東洋大学

文学部紀要日本文学文化編『文学論叢』、査読無、86号2012、91-110

〔学会発表〕(計7件)

- (1) 渋谷香織、横光利一「上海」典拠と改稿をめくって、国際シンポジウム 戦間期東アジアの日本語文学 1920～1945年、2012年9月8日、龍谷大学龍谷ミュージアム
- (2) 田口律男、上海表象のリミット 前田河廣一郎と横光利一、国際シンポジウム 戦間期東アジアの日本語文学 1920～1945年、2012年9月9日、龍谷大学龍谷ミュージアム
- (3) 松村良、雑誌『改造』と上海、シンポジウム 近代百年 日本文学における近代(1900-2000)、2011年10月23日、中国上海 復旦大学
- (4) 石田仁志、「上海」のインターテクスチュアリティ—表象の論理、シンポジウム 近代百年 日本文学における近代(1900-2000)、2011年10月23日、中国上海 復旦大学
- (5) 掛野剛史、横光利一『上海』のインド表象、シンポジウム 近代百年 日本文学における近代(1900-2000)、2011年10月23日、中国上海 復旦大学
- (6) 中澤弥、横光利一『上海』と映画表象、シンポジウム 近代百年 日本文学における近代(1900-2000)、2011年10月23日、中国上海 復旦大学
- (7) 石田仁志、田口律男、中澤弥、パネル発表「上海表象文化研究の試み—戦間期の上海を中心に」日本近代文学学会、2011年5月29日、日本大学文理学部

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渋谷 香織 (SHIBUYA KAORI)
駒沢女子大学・人文学部・教授
研究者番号：10196446

(2) 研究分担者

松村 良 (MATSUMURA RYOU)
駒沢女子大学・人文学部・講師
研究者番号：00265571
石田 仁志 (ISHIDA HITOSHI)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：80232312
田口 律男 (TAGUCHI RITSUO)
龍谷大学・経済学部・教授
研究者番号：80197251
掛野 剛史 (KAKENO TAKESHI)
埼玉学園大学・人間学部・准教授
研究者番号：00453465
中澤 弥 (NAKAZAWA WATARU)
多摩大学・グローバルスタディーズ学部・准教授
研究者番号：20279821

(3) 連携研究者

()

研究者番号：